

女の一生、
「幸せ」ってなんだ？

正野房子

58歳で出産。今、人生の幸せを謳歌なり！ 生きていて良かった！

私の人生を劇的に変えた出来事は、「58歳で子どもを産んだ」こと。

そのとき、感じたのは「喜び」「歓び」。そして、子どもが物心ついてからは、大きな「責任」も感じ始めるようになりました。

随分昔の話になりますが、一人息子のいるビジネスウーマンの友人に、「赤ちゃんの顔を初めて見たときの感動を、匹野さんにも味わってほしいわ」と言われたことがあります。なぜだかその言葉がずっと心に残っていて、妊娠をしてからもその瞬間のことをとても楽しみにしていました。

でも、たった一人で、しかも高齢で出産することは、やはり不安でした。
不安というよりも、怖かった。

これから我が子を育てていけるのか、成人するまで見届けられるのか、立派な、社会に出て一人前の人間としてやっていける子に成長させられるのか……など、さまざま不安が頭をよぎりました。

でも、妊娠してから出産まで、希望に支えられて、無事に過ごすことができました。
ここが重要だと思っうのです。

人は、「希望」を失ったとき、生きる意欲を失うと思います。

今はどんなに大変でも、どんなにつらくても希望という灯さえあれば、どんな微かな灯でも行く手を照らし、前へ進んでいけるはず。

希望……そうです。

まさに私にとって、子どもは、希望です。

出産して子どもの面倒をみて、まさに世話を焼くだけの一方通行の生活のときでさえ、

子どもの表情に、泣き声に、寝顔に大いなる希望を見出して、勇気を得ています。

今、私の娘・佐妃子は、3歳9カ月になります。

日々、おしゃべりし、遊び、意志表示もしますが、それこそまだ世話を焼く存在に変わりありません。ですが、一緒に暮らす「同居人」へと、成長しています。

読者の方のなかには（特に独身の方や、子どもがいない方には）、「子どもが希望なんて……」と思われる方もいるかもしれませんが（子どもに関する話はセンチティブなことだと、理解しながらも持論をお伝えします）。

もし、現在や未来、子どもが貴女のところへ存在していなかったらどうでしょう？

今よりも活気がありつつ、悩ましく、かつにぎやかな生活ができるでしょうか？

子どもがいればこそ、さまざまな社会との関わりや面倒くさい付き合いも生まれます。

子どもがいるうえでの不平不満は、子どものいない人は決して経験することのできない至極の人生経験です。

私の場合は、これまでの人生では関係なかった行事やイベントなども、楽しく過ごすようになりました。娘の誕生日はもちろんのこと、七夕、クリスマスなども自宅で祝っています。娘が生まれてからというもの、季節を丁寧に感じられるようになりました。

私もシングルマザーで、一人で働きながら子育てをしている最中ですが、まったく大変とは思っていません。この歳にして得難い経験をさせてもらっていると、子どもに感謝しています。

子どもをもって、大きく変わったことがあります。

何より、死ぬことが怖くなった。

それまでの私は、死ぬことが怖くなかった。

40代の検診で「乳房に異常あり。精密検査を」と言われ、大病院の医師の診断を受けるとき、「貴女は不思議な人だなあ、普通この所見が出たらそのドアを入ってくるよ、皆『先生、私はあとのくらい生きられるんでしょうか？』とか、『先生、余命はどのく

らいでしようか?』とか言って悲壮な感じで入ってくるけど、貴女は平気な顔してるもんねえ」と言われたことがあります。

親戚からは「貴女のお母さんはすごく心配しているけど、本人はまったく落ち込んでいないね」と言われたくらいです。

そんな私が、今では朝に夕に仏様に「どうか1日でも長く生かしてください。せめて子どもが中学を出るまでは」と祈っているのですから、我ながら、笑ってしまいます。

もう一つの変化は、「死が怖い」と言いつつ矛盾しますが、怖いものがなくなったことです。子どもが元気でさえいてくれたら、あとはどうでもいいと思えるようになりました。

仕事や私生活で、以前なら本当に思い悩むことですら、なんということは無いと一笑に付すことができるようになったのです。

友人に言わせると「そうだなあ。人は絶対的な存在ができると、怖いものはなくなる」。また、「愛する人ができると強くなる」とも言われましたが、まさに、子どもはもともと愛する人であり、絶対的な存在です。

『愛』ある生活が、どれほど素晴らしいことか。

私の場合、一般的な「結婚↓出産」は踏まえていませんが、だからこそ、家族をもつ素晴らしさを伝えられます。人生を共にする家族がいることの幸せを伝えたい。これが本書の一番の執筆動機です。

「価値観を共にする人と結婚すると幸せになりますよ」

「子どもは貴女に福をもたらしますよ」

未婚のまま、高齢で出産した私が言うのですから、間違いありません！

子ども（家族）がいれば、生活の潤いと感動の涙、あるときは慟哭の涙もあるかも。でも、抱腹絶倒の笑いももたらしてくれるはず。というと極端ですが、家族を得ることの良さを伝えたいなあと思います。

結婚・出産・育児には、各々事情もありますから、「なんて無責任な意見なの！簡単に言わないでよ!!」と、感じている読者の方もいるかもしれません。でも、責任をもって、私は「大丈夫ですよ」と言えます。

その理由は、これから恥も外聞もなくなつぷり書くつもりですので、ご期待ください。

ともあれ、貴女のこれからの人生がハッピーで、家族が増員されることの一助になれば、著者として睡眠時間（子どもとの時間は削れないので）を割いて本書を著す甲斐があると
いうものです。

「貴女の幸せ」の第一歩は、ここから始まります。

2017年 夏の山荘にて 匹野房子

目次

「はじめに」

58歳で出産。

今、人生の幸せを謳歌なり！

生きていて良かった！ 2

第1章

あなただけの「モノサシ」

誰かのモノサシと、あなたのモノサシ

18

婚活の建前・本音のぶつかり合い

20

コンサバ両親を振り切った娘

22

本当はどうしたいの？

25

悩めるあなたへ。悩んだ私から

28

第2章

決めるのは、自分しかない

絶対に子どもがほしいと思った日

34

リスクも苦労も上等！心の欲するままに

37

MUSTとWANT

43

捨てる勇氣

48

スペック重視の落とし穴

51

花の命はけっこう短い

54

第3章

いつまで待つのか？

白馬に乗った王子様

仲人から見た「リアル」

62

婚活は、カタログ販売じゃない！

65

急げ！アラサー、アラフォー女子よ！ 68

自分がありそうで、実は自分がない人 72

トントン拍子の結婚 74

経済力のある年上 or 若くてかわいい年下 78

化ける男の選び方 81

私、幸せになれますか？ 86

第4章

お見合いのリアル

「道ならぬ恋」に要注意！ 90

30、40年後の私 93

結婚相手の条件 98

家庭こそが、宇宙 103

素晴らしき哉、専業主婦 107

夫婦の和合は百万の敵も倒す 109

夫婦の顔は同じ向きに 114

お見合いのススメ 118

お見合いのリアル(15のQ&A) 121

第5章

子どもこそ、原動力!!

ウー、なんでもつたいたい！ 132

すべては工夫次第 136

世の中、なんとかなるもの 139

結婚、子育て、恐るるに足らぬ 144

思わぬ人も味方に。渡る世間に鬼はなし 149

愛こそ、すべての原動力 151

計画違いは当たり前前、修正行動あるのみ 156

母親って素晴らしい体験！

159

第6章

稼げる女になる方法

子どもは貴女の後ろ姿を見ている 166

強く願えば、必ず願いは叶う 169

「何」のために働くのだろうか？ 171

理想は正社員。でも、デメリットもある 175

シングルマザーの働き方 178

貴女流のスキルアップをしよう 179

効率良く、短い時間で稼ぐ 181

専業主婦の器量、ここにあり 186

第7章

女の弱点を克服する

なぜ、女は人脈を作れないのか？ 190

財務に強い人を味方に 195

都落ちの中古一戸建てはNG 198

姑との良い関係が幸せな家庭のカギ 202

女性こそ不動産を購入しよう 206

税理士が教える資産形成 210

第8章

品ある、大人の女になるために

おひとりさま老後は淋し過ぎる 214

パートナーと価値観を共有する 216

年齢に相応しい生き方 219

老後も自立していたい 222

女の履歴書を見て思うこと 224

女を磨くことを忘れずに 228

子どもを産めば、世界が変わる 232

母性本能は人間関係の潤滑油 236

「おわりに」

今日の決断を、何十年後かの幸せに。
すべては、貴女の価値観で決めるだけ。